東海市立加木屋中学校
住　　所　　東海市加木屋町西御嶽１８－１
電話番号　　０５６２（３４）３４０５
校 長 名　　冨田　高生　　生徒数　６９９名
学級数　２４学級（内　特支４）

○教育目標　・自主・・・自ら考え、正しい判断をし、実行する生徒
・協調・・・集団の一員として他を思いやり、よりよく生きようとする生徒
・奉仕・・・他のことを考え、自ら進んで奉仕する生徒

○学校経営方針　どの生徒も「より善くなりたい」と願っている。学校は人をつくることろである。生徒の主体的性を尊重しつつ、「生きる力」の育成を目指す。
ア　自己の生き方について考えを深め、豊かな心を育む（徳）
イ　自己の人生を切り拓くための確かな学力を育む　（知）
ウ　たくましく生きるための健やかな体を育む　（体）

○地域の特色　・経済的にも安定した家庭が多く、教育熱心である。地域も学校に対して大変協力的である。

資料

中期目標	今年度の目標	評価方法（ｱﾝｹｰﾄ項目）	結果の分析	課題と対応策	学校関係者評価 学校運営協議会評価 【実施日】令和７年２月13日	来年度の改善策（誰が何をどうする）
知 確かな学力を育む	**確かな学力を育む** ・「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を行う。 ・各教科において、主体的に学習に取り組むことができる学習課題をもたせる。 ・総合的な学習の時間や特別活動において、課題を見いだし、よりよく解決をさせていく中で、それぞれが目指す資質・能力を育成する。	○加木屋中学校の授業はわかりやすい。（生徒ｱﾝｹｰﾄ項目11） ○担任・教科担任は、わかりやすい授業をしていると子どもから聞いている。（保護者ｱﾝｹｰﾄ項目４） ○わかる授業を実践している。（教師ｱﾝｹｰﾄ項目10） ○「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を実践している。（教師ｱﾝｹｰﾄ項目12）	○**88.1%**（R5:81.8%）の生徒は授業がわかりやすいと回答した。 ○**57.3%**（R5:49.4%）の保護者がわかりやすい授業をしていると聞いていると回答した。 ○**93.3%**（R5:89.3%）の教師が、わかる授業を実践していると回答した。 ○**93.3%**（R5:89.4%）の教師が、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を実践していると回答した。 ・昨年度と比較すると、生徒**6.3%**、保護者**7.9%**、教師**4.0%**値が上昇した。校内で、生徒が自身の意見・考えを交流させるたり、生徒同士話し合ったりする「主体的・対話的で深い学び」や、学習課題に対して多様な内容を幅広く調べることができる「ICT を活用した授業」が定着してきたと考えられる。	○教師は、生徒が授業でより主体的に取り組むことができるよう課題設定を工夫し、「対話」を意識し、話し合い活動やICT機器の活用を行っている。「深い学び」に繋げることができるように、互いに授業を見合い、意見を交換し、より一層わかりやすい授業を目指す。 ○教師は「わかる」授業を進める中で、ICT機器を活用し、画像や映像等の資料を増やし、よりわかりやすい授業が展開されている。継続して実践していくとともに、単なるﾌﾟﾚｾﾞﾝを提示する授業だけではなく、生徒たちがより深く考えることができるように、意見や考えを交流できる手立てをとっていきたい。	・生徒が楽しいと感じている教科は多いが、教科によってはわかりにくいと回答しているものがあり残念である。教師の項目「楽しい授業をしている」「わかる授業をしている」「授業力を向上しようと意識をもって研究・研鑽に臨んでいる」等に90%以上が「あてはまる」と応えているので、そのｷﾞｬｯﾌﾟを埋めることができるとよい。 ・教師のいくつか項目において、「あてはまらない」と答えている教師がどの項目も4.4%（約２名）いるので、同じ教師と考えられる。指導とともにケアをしていくとよい。	○教務主任を中心に、教師は生徒が学習課題をより自分事として捉えられるような設定をして授業に臨むことができるようにする。話し合い活動の成果・課題をよく認識し、より効果的な活用や授業方法を考え、生徒が「わかる」「できる」授業づくりを一層目指す。教師一人一人の基礎的な授業力の向上を図るため、来年度も教師がお互いの授業を見合うｵｰﾌﾟﾝｸﾗｽｳｨｰｸを実施する。 ○校内現職教育研修会を来年度も実施し、大学教授の外部講師を招き、本校の目指している方向性についての意見をいただいたりし、新しい教育について、講演をしていただいたりして授業力向上を図る。
	・現職教育のテーマをもとに授業研究を進める。 「子どもが生き生きと活躍できる魅力ある学校づくり　―授業づくり・関係づくり・居場所づくりを通して―」	○授業力を向上しようという意識をもって、研究・研修に臨んでいる。（教師ｱﾝｹｰﾄ項目16） ○授業の導入で子どもたちの「やりたい。なりたい。」を引き出す工夫をしている。（教師ｱﾝｹｰﾄ項目11）	○**95.6%**（R5:89.3%）の教師が授業力を向上しようと研究・研修に臨んでいると回答した。 ○**88.9%**（R5:87.2%）の教師が「やりたい。なりたい。」を引き出す授業の工夫をしていると回答した。 ・昨年度と比較すると、項目「授業力を向上しようという意識をもって、研究・研修に臨んでいる。」は**6.3%**、「授業の導入で子どもたちの『やりたい。なりたい。』を引き出す工夫をしている。」は**1.7%**、と値は上昇した。２回の校内現職教育研修会を行い、授業方法の工夫の意識が高まり生徒先導型の授業スタイルを取り入れる教師が多くなってきたと考えられる。	○教師は、研修等で知り得たものを教科部会等で周知し、授業で取り入れるようにする。校内現職教育研修会や、ｵｰﾌﾟﾝｸﾗｽｳｨｰｸを活用するなどして、より一層の研究・研修を進めていく。 ○生徒の主体性を引き出しやすくするために、「何を学ぶか」「何をできるようにするか」「どのように評価するか」という見通しをもたせていく。授業の終盤に生徒が目標に近づいたという気持ちになれるよう、途中途中で形成的評価を行いながら指導していく。		
徳 豊かな心を育む	**豊かな心を育む** ・生徒の道徳性を養うために、考え、議論する、魅力ある道徳の授業を追究する。 ・地域や家庭と連携して奉仕活動を推奨し、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ精神を育む。 ・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ生徒等とともに花を育て、華のある学校づくりを進める。	○地域行事や各種のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動に積極的に参加している。（生徒ｱﾝｹｰﾄ項目９） ○地域の子どもは、地域の活動や行事によく協力している。（地域住民ｱﾝｹｰﾄ項目３）	○**36.3%**（R5:31.5%）の生徒が地域行事やﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動に積極的に参加していると回答した。 ○**47.7%**（R5:61.1%）の地域住民は生徒が地域の活動や行事によく協力していると回答した。 ・昨年度と比較すると、項目「地域行事や各種のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動に積極的に参加している。」は**6.3%**、値が上昇し、「地域の子どもは、地域の活動や行事によく協力している。」は13.4%、値は下降した。加木屋南ｺﾐｭﾆﾃｨの夏祭りやふれあいまつり、東海秋まつり、東海市ハーフマラソン等には多く生徒がﾎﾞﾗﾝﾃｨｱとして参加した。しかしながら、加木屋南以外の地域行事はテスト週間と重なってしまい協力できなかった。そのため、地域住民の値が下がった原因と考えらえる。	○引き続き、地域行事やﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの募集等を、生徒たちへ積極的に案内をしていく。生徒が地域の活動を通して、自己有用感や自己肯定感を感じることができるように、学校のよき伝統として、継続できるように学校全体に声かけをしていく。 ○総合的な学習の時間や道徳の時間などの機会を捉えて奉仕の精神や地域を大切にする心を育むとともに、地域の一員として地域に関わる意識を高めていく。 ○ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱで活動した様子を紹介したり、感想を全校生徒に伝えたりする。	・草刈り等のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱとして参加すると、生徒たちは校舎から大きな声で「ありがとう」と言ってくれる。本当に嬉しいことである。 ・ﾒｰﾙ配信ｼｽﾃﾑ等を活用して、学校に入るﾎﾞﾗﾝﾃｨｱを増やしていくことが生徒への啓発に繋がると考える。	○学校は、市や各ｺﾐｭﾆﾃｨの行事等におけるﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ募集の機会を生かし、生徒の地域参加・地域貢献を図る。教師は、生徒たちに、地域で活動する意義を伝え、生徒ができることを考えさせ、活動させたい。 ○今後も教師一人一人がｽﾛｰｶﾞﾝを意識し、場面を捉えて、夢をもつことの大切や楽しさを伝えていく。そして魅力ある教育活動を展開していく。 ○授業や行事において達成感を感じることができるように工夫していく。
	・「自主 協調 奉仕―魅力ある加中 夢に向かう加中生―」をｽﾛｰｶﾞﾝに学校運営を進める。 ・夢を抱く生徒を育成するために、教育活動全体で生徒とともに夢を語っていく。	○夢や希望をもって中学校生活を送っている。（生徒ｱﾝｹｰﾄ項目５） ○あなたの子どもは、夢や希望をもって中学校生活を送っている。（保護者ｱﾝｹｰﾄ項目２） ○ふだんから、学校のｽﾛｰｶﾞﾝ「自主 協調 奉仕―魅力ある加中 夢に向かう加中生―」を意識した指導をしている（教師ｱﾝｹｰﾄ項目22）	○**73.5%**（R5:65.4%）の生徒が夢や希望をもって中学校生活を送っていると回答した。 ○**66.2%**（R5：54.5%）の保護者が子どもは夢や希望をもって中学校生活を送っていると回答した。 ○**88.9%**（R5:87.2%）の教師がｽﾛｰｶﾞﾝを意識した指導をしていると回答した。 ・昨年度と比較すると、生徒は**8.1%**、保護者は**11.7%**、教師は**1.7%**、上昇した。50周年の記念行事があり、生徒、保護者、教師、地域から関わってくださった方が、よりよいものにしようと同じ気持ちで活動できたからと考えられる。	○生徒が夢や希望をもてる授業の工夫を行う。キャリア教育を踏まえ、学級活動、総合的な学習の時間、道徳等の充実を図って、夢に向かって歩む生徒を育成していく。 ○記念行事があったからではなく、ふだんから学級活動や行事において生徒が「学校には自分が活躍できる場所がある」と思えるように、一人一役を意識して学級活動や行事に取り組ませる。	・ほとんどの生徒のｱﾝｹｰﾄで値が上昇している。50 周年記念行事への取り組みが充実していたと考える。 ・すべての生徒ｱﾝｹｰﾄに関わるが、不登校の生徒も合計に入れると値が変わってくる。入れて集計した方がよいと考える。	
体 たくましく生きるため健やかな体を育む	**心身の健康に関心をもち、自他共に大切にする生徒の育成** ・生涯にわたって積極的に運動に親しむ意欲をもたせる。 ・望ましい生活習慣、食生活を身につけさせる。	○朝食を毎日食べたり、早寝早起きをしたりするなど、規則正しい生活を送っている。（生徒ｱﾝｹｰﾄ項目４） ○あなたの子どもは、朝食を毎日食べたり、早寝早起きをしたりするなど、規則正しい生活を送っている。（保護者ｱﾝｹｰﾄ項目１） ○日頃の様子や教育をから、子どもたちは、規則正しい生活を送っていると感じる。（教師ｱﾝｹｰﾄ項目８）	○**83.3%**（R5:81.8%）の生徒は規則正しい生活を送っていると回答した。 ○**81.8%**（R5:79.5%）の保護者が生徒は規則正しい生活を送っていると回答した。 ○**86.7%**（R5:76.6%）の教師が子どもたちは規則正しい生活を送っていると回答した。 ・昨年度と比較すると、生徒は**1.5%**、保護者は**2.3%**、教師は**10.1%**、値が上昇した。校内の情報ﾓﾗﾙ教室やｽﾏﾎ利用の家庭のﾙｰﾙづくりが浸透してきていると考えられる。 ・栄養教諭が学年ごとに、食の指導を行っているため、生徒たちには朝食の摂ることの大切さも浸透してきたと考えられる。	○各家庭の協力により、規則正しい生活習慣が身についている。 ○校内でも引き続き情報ﾓﾗﾙ教室を行い、規則正しい生活が送れるようなICT機器との上手な活用を指導していく。 ○学活や保健体育だけでなく、学校保健委員会でも食や睡眠の内容を取り上げ、その大切さを伝えられるようにしていく。 ○年に１回の学級や学年での食育の授業や、給食中の昼の放送における食の指導を継続して行っていく。	・生徒の生活面は向上していると考えられる。各学年での情報ﾓﾗﾙ教室をｽﾏﾎ等ICT機器類と上手く付き合うことができるようになってきたと考えられる。ｽﾏﾎに関する事案は、年々変化していくため、その時々にあった指導を継続的に行うとよい。	○来年度も生活習慣ｱﾝｹｰﾄを実施し、生徒の生活状態を把握しながら、実態に合った情報ﾓﾗﾙ教室や食の指導、学校保健委員会を行っていく。
	・生徒理解に努め、生徒の心に寄り添い、生徒一人一人の「居場所づくり」を進め、自己有用感に裏付けされた自己肯定感を味わわせる。	○いじめなど、困ったときに相談したい先生がいる。（生徒ｱﾝｹｰﾄ項目10） ○加木屋中学校の職員（担任を含む）は、相談しやすい。（保護者ｱﾝｹｰﾄ項目６） ○教育相談を活用し、いじめ等の生徒の悩みに耳を傾け、適切に対応するなど生徒理解に努めている。（教師ｱﾝｹｰﾄ項目７）	○**51.7%**（R5:48.2%）の生徒が困ったときに相談したい先生がいると回答した。 ○**68.1%**（R5:64.1%）の保護者が加木屋中学校の職員は相談しやすいと回答した。 ○**95.6%**（R5:80.9%）の教師がいじめ等の悩みに対して耳を傾け、適切に対応するなど生徒理解に努めていると回答した。 ・昨年度と比較すると、「いじめなど、困ったときに相談したい先生がいる」は**3.5%**、、「加木屋中学校の職員（担任を含む）は、相談しやすい。」は**4.0%**、「教育相談を活用し、いじめ等の生徒の悩みに耳を傾け、適切に対応するなど生徒理解に努めている。」は**14.7%**と値が上昇した。各学級や各学年における生徒同士のからかいやいじめ、友人関係のﾄﾗﾌﾞﾙ、問題行動等の指導が早期に発見され、対応できたと考えられる。	○教育相談ｱﾝｹｰﾄの活用だけでなく、日常からの生徒の理解を深め、生徒の心に寄り添うことができるように努める。 ○担任だけでなく学年主任や生徒指導主事等と連携し、早期発見早期対応、組織的な解決に努めたい。 ○日頃から保護者と連絡をとり、連携しながら、指導を行うことができるようにしていく。 ○別室登校の教室 Iris をより効果的に活用し、ｽﾃｯﾌﾟを踏みながら、生徒が徐々に教室へ向かうことができるように働きかけをする。	・不登校生徒への対応は、次のように聞いている。ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰとの面談を勧め、生徒・保護者の気持ちに寄り添うようにしたり、学校に来ることができる生徒は、別室登校からはじめ、少しずつ教室に促したり、学校に来ることができない生徒は、教育支援センターを利用したり、家からも出られない場合はｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰを活用し、家庭訪問をしたりして、登校への糸口を探る。引き続き行うとよい。	○学校は、不登校の未然防止のために、生徒一人一人が活躍できる居場所があるように努める。 ○別室登校の教室 Iris で、多くの教職員とふれ合うことができるよう、教室監督の教師の配置を考える。また　教科指導も徐々に行うことができるようにしていく。
地域連携 開かれた学校	**開かれた学校** ・ＰＴＡ、学校運営協議会、３つのｺﾐｭﾆﾃｨと連携し、情報交換を行いながら、学校と保護者・地域との連携を図る。 ・地域ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動及び地域行事への参加を推進する。	○加木屋中学校は、よい学校だと思う。（保護者ｱﾝｹｰﾄ項目12） ○あなたは、学校公開や学校行事に積極的に参加している。（保護者ｱﾝｹｰﾄ項目７） ○学校だよりや学校ﾌﾞﾛｸﾞ等により、学校の様子がよくわかる。（地域住民ｱﾝｹｰﾄ項目４） ○保護者の願いや声を聞くために、自ら働きかけるよう心がけている。（教師ｱﾝｹｰﾄ項目20）	○**80.5%**（R5:74.5%）の保護者が、加木屋中学校はよい学校であると回答している。 ○**77.1%**（R5:76.1%）の保護者が学校公開や学校行事や地域の活動に積極的に参加していると回答している。 ○**52.3%**（R5:63.9%）の地域住民は学校の様子がよくわかると回答した。 ○**77.8%**（R5:76.6%）の教師は、保護者の願いや声をきくように心がけていると回答している。 ・保護者の「加木屋中学校はよい学校である」は6.0%、「あなたは、公開や学校行事に積極的に参加している。」は**1.0%**、「保護者の願いや声を聞くために、自ら働きかけるよう心がけている。」は**1.2%**、値が昨年度よりも上昇した。しかし、地域住民の「学校だよりや学校ﾌﾞﾛｸﾞ等により、学校の様子がよくわかる。」は**-11.6%**と値が大きく下降した。50周年記念式典に関わる案内等を、各ｺﾐｭﾆﾃｨを通じて回数多く行ったので、学校の様子を伝えていたが、効果が十分に得られていない。	○多くの保護者がとても教育熱心であり、学校に対して好意的である。教師は、その保護者の声に対して、今以上に耳を傾け、願いを実現できるよう努めたい。 ○活動の状況を、学校だよりやﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞで地域に紹介している。今後も学校生活の様子を紹介できるように、ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ内のﾌﾞﾛｸﾞを毎日更新できるように努めていく。また、保護者には、学校行事等の限定配信ができるよう進めていきたい。	○加木屋中学校区の保護者は、学校に協力的な保護者が多いと聞いているが、これからは様々な保護者がいるので、もしかしたら苦情も多くなっていくかと思うが、情報として捉え前向きに対応するとよい。	○教頭が、PTA、学校運営協議会、地域学校共同本部を活用し、地域の方に一層学校に関わっていただけるようにする。 ○学校の取組を、学校だよりやﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞに掲載するだけでなく、ｲﾝﾀｰﾈｯﾄを利用した配信を行うことで学校のことをお知らせする機会を増やす。